

労働力調査の結果を見る際のポイント No.4

原数値と季節調整値

労働力調査のような月次統計には、例えば農林業就業者が春から夏にかけて増加し、秋以降減少していくといった、季節的な要因で毎年同じような動きをするものがあり、これを「季節変動」と呼んでいます。

月次統計を分析する際、「原数値」によって1年前の同じ月と比較する場合には、こうした季節変動を考慮する必要はありません。しかし、例えば前月や前々月と比較する場合には、原数値に季節変動による変化分が含まれるため、雇用失業情勢や景気変動などをみる上では、季節変動の影響を除く必要があります。そこで、原数値から季節変動を除去した結果数値である「季節調整値」を公表しています。

完全失業率のように、月々の動きが重要な意味を持つものについては、主に季節調整値を公表していますが、季節調整する前の原数値も併せて公表しています。

就業者数のように、人数規模等の水準が重要な意味を持つものについては、主に原数値を公表していますが、季節調整値も併せて公表しています。

原数値をみる場合は、季節変動の影響を考慮して、1年前の同じ月と比較した分析をするのが一般的です。

季節変動のパターンは、毎年少しずつ変化していきます。直近の季節変動パターンを結果数値に的確に反映させるため、労働力調査においては、季節調整値を毎年年初（1月分結果公表時）に過去10年分の結果数値までさかのぼって改定しています。そのため過去に公表した数値は、後に改定することがありますので注意が必要です。

労働力調査においては、過去29年間の原数値をもとに、米国センサス局法（X12-ARIMA）のX11デフォルトを用いて、季節変動のパターン（季節指数）を算出し、原数値を季節指数で除すことにより季節調整値を算出しています。

図 農林業就業者の原数値、季節指数及び季節調整値

